

1 研究主題

「自ら学び方を選択し、主体的に問題を解決する児童の育成」 ～算数科を中心とした「個別最適な学び」の実現を目指して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

近年、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により社会は急速に変化しており、予測困難な時代となっている。令和 5 年 6 月に閣議決定された「第 4 期教育振興基本計画」では、目指すべき教育の姿として、個人の幸せと社会の発展を両立させる「ウェルビーイング」の向上を掲げ、その基盤として「個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実」が改めて示された。

これまで以上に子どもの成長やつまずきなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められている。また、様々な学習活動を通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することも求められている。

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）において、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。未来の社会を見据え、児童の資質・能力を育成するにあたっては、これまで学校教育が培ってきた実践と、1 人 1 台端末等の ICT を有効に組み合わせながら、学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要であると考えます。

(2) 本校の教育目標から

本校では、教育目標として、「正しく優しく元気よく～須古大好きな子どもの育成～」を掲げている。これは、歴史的に培われてきた須古三近堂の教学精神「知・仁・勇」を、現代社会に照らして、「正しく」「優しく」「元気よく」とし、児童の教育に反映するように努めている。この「知」が目指す児童像は、「主体的に学び、思いや考えを表現できる子ども」である。

昨年度は、この「知」の具現化に向け、他者との関わりの中で自分の考えを深める「話し合い活動」の充実努めてきた。これは、互いの良さを認め合い、分かる喜びを分かち合う「仁」の精神に基づく「協働的な学び」の基盤を築くものであった。今年度は、この基盤をさらに発展させ、児童一人一人が自らの学習状況をメタ認知し、自分に合った「学び方」を自ら選択・調整していくプロセスの構築を目指す。これは、「知」が目指す「主体的に学び、思いや考えを表現できる子ども」を、単に「意欲的に取り組む」だけでなく、「自立した学習者として自らの学びを調整していく姿」へと高めていくことを目指す。特に算数科においては、系統性が高く、個々の習熟度や思考のプロセスが多様である。そこで、ICT を効果的に活用しながら、問題解決の場面において、解決の手立てや練習問題の難易度、学習形態を児童自らが選択できる環境を整えていく。自らの課題に対して最適な手段を判断し、粘り強く取り組む姿は、まさに「勇（元気よく）」の精神、すなわち困難を乗り越え未来を切り拓く

力へとつながるものである。本研究主題に沿って、「個別最適な学び」と、昨年度まで培ってきた「協働的な学び」を一体的に充実させることで、全児童が「わかる・できる」を実感し、主体的に未来を創造していく資質・能力を育成し、本校教育目標の具現化を図っていききたい。

(3) 児童の実態より

本校児童の算数科に関する実態としては、令和7年度の教研式標準学力検査の結果を観点別得点率で見ると、知識・技能については、全学年の平均が101.3であり、特に4年生を中心に、多くの学年で全国標準と同等、あるいはそれを上回る結果となった。また、「思考・判断・表現」においても、全学年平均が105.2と高い結果であった。一方で、「主体的に学習に取り組む態度」に注目すると、低・中学年では100を大きく超える意欲的な傾向が見られるものの、高学年に進むにつれて全国標準を下回る、あるいは停滞する傾向にある。この背景には、学習内容が高度化するに伴い、一斉指導の中では自分に合った解決方法を見出せなかったり、受動的な学習態度に終始したりする児童の存在が推察される。また、本校には、習熟度が異なる児童、支援を必要とする児童など、多様な実態がある。画一的な指導に合わせるのではなく、一人一人の特性に応じた解決の手立てを調整できる環境を整えることで、どの子も意欲的に挑戦できる可能性を秘めている。そこで、児童が自身の習熟度や特性に応じて「学び方を選択」できる個別最適な学びを実現し、誰もが自信を持って主体的に問題を解決できる姿を目指していきたい。

(4) これまでの研究から

本校では、一昨年度より算数科を軸とした授業改善に取り組んできた。これまでの研究により、児童は自分の考えを表現する力を高め、ICT 端末の活用スキルも着実に身に付けてきている。

一方で、これまでの「話し合い活動」を中心とした一斉指導主体の学習過程では、個々の習熟度や興味関心の違いに応じきれず、自ら学びを調整しながら深めていく姿には課題が残った。

本年度は、これまでの対話的な学びの基盤を活かしつつ、児童が自らの実態に応じて解決方法や学習形態を「選択」できる場を構成していく。1人1台端末についても、単なる提示や共有のツールに留まらず、自分のペースで学びを深めたり、必要な情報を選択したりするための「個別最適な学び」を支える手段として、その効果的な活用についてさらに研究を深めたい。

3 研究の目標

算数科において、児童が個々の特性や理解度に応じて学び方を選択できる環境（解決ツール・学習形態・課題）を整える。これにより、一斉指導のみでは十分に力を発揮しづらかった児童を含め、全ての児童が解決の見通しをもち、粘り強く主体的に問題を解決しようとする態度の育成と、確実な学力の定着を図る。

4 研究の仮説

算数科の問題解決学習において、児童が自身のつまづきや学習状況に応じて、ICT を含む解決ツールや、他者との協働（話し合い）の場を自ら選択できるような学習過程を工夫すれば、児童が自分のペースで「分かった・できた」という喜びを実感し、主体的に問題を解決することができるだろう。

5 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

「選択」を軸とした算数科授業モデルの研究

児童が以下の3つのパターンで「選択」できる場面を設計する。

【 1 : ツールの選択】	紙のノートかタブレットか、具体物（ブロック等）かデジタル教具（動画・シミュレーション等）か。
【 2 : 学習形態の選択】	一人でじっくり考えるか、友達や先生と解決するか。
【 3 : 課題の選択】	自分の習熟度に合わせて挑戦する問題（コース等）を選ぶ。

【 1 : ツールの選択】の例

個別最適な学びを支える ICT 活用コンテンツの整理

図形の描き方の解説動画や立体の 3D シミュレーションなど、児童が「必要な時に、自分のタイミングで見られる」デジタル教材を蓄積する。

【 2 : 学習形態の選択】の例

「話し合い」を手段として活用する指導法の工夫

一斉の話し合いだけでなく、必要な児童が随時集まって解決する「対話の選択肢」としての場作りを行う。

(2) 研究の方法

ア 「選択の場」を明記した学習指導案の作成

単元や本時の展開の中に、「児童が何を選択し、どう自分なりに解決するか」という意図的な場作りを位置づける。

イ ICT 環境の整備とリンク集の共有

授業で活用できるデジタル教具や動画のリンク集を学年・学校全体で共有し、教員の負担軽減と授業の質向上を図る。

ウ 授業実践を通した変容の検証（全校研・グループ研）

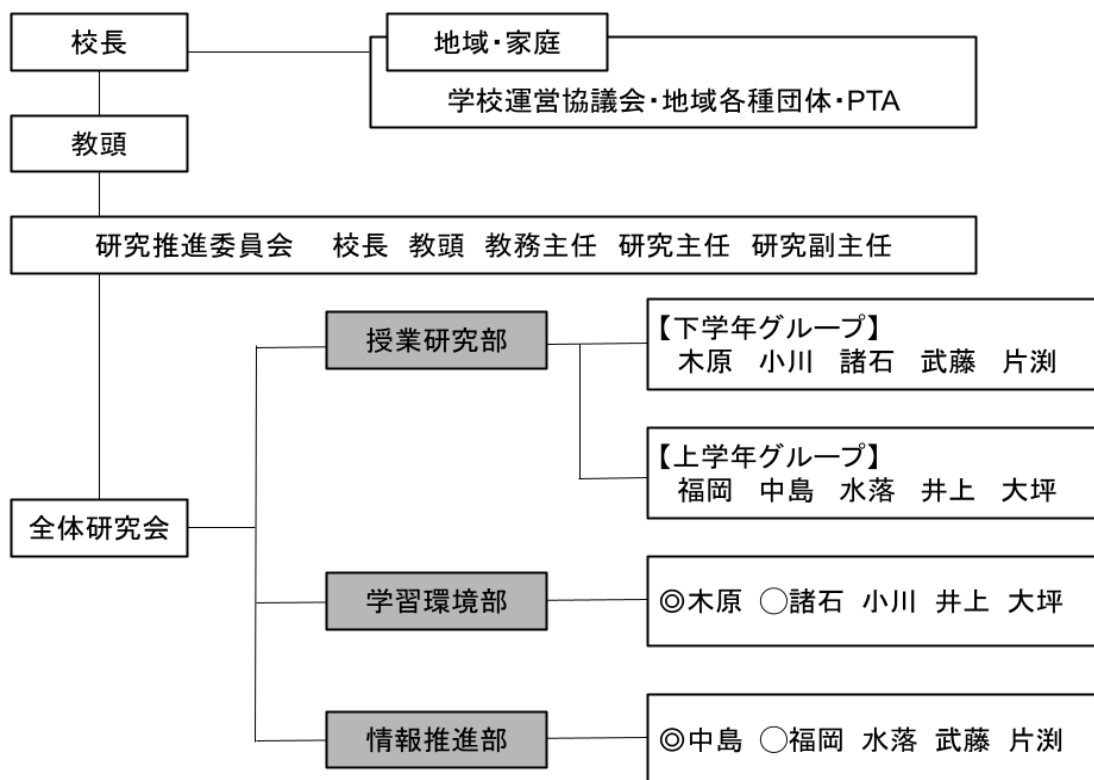
「児童がなぜそのツール・方法を選んだのか」「その選択によって、一斉指導では難しかった児童がどう変容したか」を軸に事後研究を行う。

エ 多角的な評価と検証

ワークシートや端末の学習履歴（ログ）に加え、児童の振り返りから「自分に合った方法で解決できた」という自己有用感の高まりを分析する。

6 研究の組織と各部の活動

(1) 研究の組織



(2) 研究の組織における各専門部の活動について

①授業研究部

- ア 算数科の研究授業又は参観授業を全員が行い、研究の成果と課題についてのまとめを行う。
- イ ヤッタータイム（国・算）を活用し、児童の基礎基本の定着を図る。
- ウ タブレットタイムを活用し、一人一台端末の機器の操作に関する児童の技能向上を図る。

②学習環境部

- ア 基本的学習習慣及び学習過程の検討を行い、学習環境づくりに必要な準備・作成を行う。
- イ 100マス計算の準備・問題の補充を行う。
- ウ ヤッタータイム(国・算)の充実を図るため、必要な環境づくりに取り組む。
- エ 児童の活動状況記録・掲示等を行う。

③情報推進部

- ア 教職員のスキルアップのための一人一台端末活用学習会を企画・運営する。
- イ 児童に求められる活用技能を検討し、学年や発達段階に応じた指導計画を作成する。
- ウ ICT支援員との連携を図り、一人一台端末を活用した授業改善に関する情報収集を行う。
- エ 児童の意識調査を作成し、7月と12月に調査を実施する。

7 令和8年度 校内研究 研修計画予定 ※(5/24)運動会 ※(7/3)町教委学校訪問

月 日	研 修 名	研 修 内 容 等
4月 6日(月)	研究推進委員会①	研究の概要について 校内研①内容検討
4月 8日(水)	校内研①	本年度の校内研究について 今後の研修計画・全体授業研について
4月27日(月)	研究推進委員会②	実践へ向けた研究内容について 児童の意識調査・指導案様式について
5月 7日(木)	校内研②	実践へ向けた研究内容について(各専門部) 児童の意識調査・指導案様式について 授業者(全校研)決定
6月 8日(月)	研究推進委員会③	
6月10日(水)	校内研③	指導案検討等
7月 6日(月)	研究推進委員会④	
7月 8日(水)	校内研④	授業のイメージの共有
8月 3日(月)	研究推進委員会⑤	
8月 5日(水)	校内研⑤	理論研究(講師招聘)
9月 7日(月)	研究推進委員会⑥	2学期の取組について
9月 9日(水)	校内研⑥	2学期の取組について 指導案検討等
10月19日(月)	研究推進委員会⑦	
10月21日(水)	校内研⑦	指導案検討等
11月10日(火)	研究推進委員会⑧	
11月18日(水)	校内研⑧	研究授業①
12月 8日(火)	研究推進委員会⑨	研究のまとめ
12月 9日(水)	校内研究⑨	研究のまとめ
1月 5日(火)	研究推進委員会⑩	
1月 6日(水)	校内研究⑩	研究のまとめ(各Gで)
2月 8日(月)	研究推進委員会⑪	次年度への話し合い
2月17日(水)	校内研究⑪	次年度への話し合い
3月 8日(月)	研究推進委員会⑫	次年度へ向けて
3月10日(水)	校内研究⑫	次年度へ向けて

※グループ研については、各グループで実施日程を決めることとする。各グループで、研究授業の実施・参観・授業研究会を行う。特別支援学級においては、自立活動の授業を公開する。